

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590400152		
法人名	医療法人 泰山会		
事業所名	グループホーム近江		
所在地	滋賀県近江八幡市上畑町88番地		
自己評価作成日	令和2年7月5日	評価結果市町村受理日	令和2年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	令和2年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念「私や私の親、家族が受けたいと思える医療、介護、福祉サービスの実現」に基づき、ご利用者と職員が食事の支度や掃除、洗濯などを出来る限り一緒に行うことで、認知症によって起こりうる生活上の困難や障害に寄り添い、支援し、穏やかで安心できる生活を一緒に創り上げています。できない事よりもできる事に目を向けて「生きがい」や「やりがい」のある暮らしを支え、ご本人の自信に繋げています。施設内外の研修会には積極的に参加し、認知症ケアの知識を深めています。また、ホームだけを生活の場としてとらえるのではなく、地域が生活の場であるという視点から、地域での認知症に対する取り組みや支援に対しても積極的に参加し、地域とのつながりも大切にしています。季節を感じていただけるよう四季折々の行事を計画し単調になりがちな施設での生活に少しでも変化をつけて、それでいて普段は落ちついた、安心できるみんなの家でありたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を事業所の理念とし、理念を基に事業所独自の「使命・ビジョン・3本の柱」を掲げ、「人と人が繋がる環境づくり、地域と連携等」に展開して実践に活かしている。利用者一人一人のペースを大切に「できないことよりもできることに目を向けて」と自信に繋げる支援をし、利用者も明るく穏やかに過ごしている。家族も、一人一人に合わせたサービス、気配りがされていると喜ばれている。施設の職員が地域の防火訓練に参加するなど地域との交流に努めている。近江八幡市の介護施設として初めて外国人スタッフの受け入れを行っており、他業者の先駆的な立場で人員確保、職員の育成にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり職員一丸となってその理念を共有して実践につなげている	「私や私の親、家族が受けたいと思える医療、介護、福祉サービスの実現」を理念にあげ、職員は常に振り返ると共に会議などで確認しながら共有している。近江の使命とビジョンを明確化しユニットごとに掲示し、理念の理解を深め実践に繋げている。	理念の具体的実践のため「使命・ビジョン・3本柱」を作り、全職員が常に忘れず実践できるように、玄関、各ユニットに掲示し、家族の来訪時にも目に付くようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、職員一同地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々から、野菜等取れたものを頂いたり、見守り、声かけしてもらいながら、入居者との交流を図っている。自治会にも加入しており、清掃行事にも参加したり、地域の消防訓練も参加させていただいている。また、朝、子供たちの登校時には「行ってらっしゃい」などの声掛けも行なっている。	自治会に加入し、地域の清掃行事や消火訓練にも参加している。近所の人から野菜を頂いたり、農家からお米を購入するなど交流に努めている。夏祭りには地域の方よりテントを借り、テント張りの支援も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内の方にもご参加いただいています。また、清掃作業などの際には地域の高齢者を抱えるご家庭の相談に乗らせていただく事もあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。市の担当者様、地域の方、家族様に事業所の活動報告や利用者さんの近況報告などさせていただいている。助言等をサービスの向上に活かしている。また、今年度から身体拘束を適正化する委員会としても活用させていただいております。現在はコロナウイルスの影響で会議は開催できないが、書類報告をさせていただいている。	地域住民代表、利用者家族、行政職員などの参加のもと開催していたが、コロナウイルスの影響ため現在書面による意見交換となっているが意見の提示が少ない。事業所からの連絡事項、行事等の報告が主で、入所者家族、地域代表、介護保険課、法人本部に議事録を配布している。	意見を述べやすいような工夫をし、会議メンバーや家族との情報交換に活かして欲しい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席したいただき、ホーム内での、問題や家族様からの不満などを一緒に考えていただいている。この度のコロナウイルス関連ではマスクなどの支給の連絡や、面会制限の解除時期の検討など、連絡を取り合っている。	市職員が運営推進会議に参加し、都度助言を受け、コロナウイルス等感染予防対策に対しては情報を共有している。市主導の人材確保のためのイベントや勉強会に職員が参加して日頃から協力関係を築いている。介護相談員を受け入れていたがコロナ渦のため現在中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア	権利擁護推進員養成研修で学んだことを、OJTで実践している。月一回のミーティングでも、不適切なケアはないか内容をピックアップし、全職員で対応策を検討、共通対応を行っている。玄関は施錠をせず、敷地に柵を設けることなく、自由に外に出られ散歩をして頂いている。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議を活用して行っている。玄関を施錠していないが、過去に離脱した利用者がいた為、家族より施錠してもらえないかと提言があり、家族と相談のうえシルバーカーにGPSを付けるなど検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に積極的に参加し、心も体も縛らないケアに全職員で取り組んでいる。また虐待が見過ごされる事のないように日頃から注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見制度を利用されている利用者さんが複数名おられるので、後見人様と連絡を取りながら、権利を保護し安心した生活が送れるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には、事前に見学に来ていただき、ホームの内容をご説明、疑問にお答えさせていただいており、納得されてからのご契約をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、クレームなどは、申送りノートや、月一回のミーティングで話し合うようにしている。月1回介護訪問員は今年度はコロナウイルスの影響で訪問されておらず、今後機会があればご意見を参考に運営していきたい。看取りや終末期の対応については、今年度ご本人・ご家族全員に再調査し、意向確認の予定。	家族からは面会、運営推進会議参加時に要望等聞きサービスの向上に活かしている。家族から菓子類は持参しているが、他に楽しめるものは何かないと話があり、それぞれに個別に出来る事楽しめる事を探していきたいと回答している。職員名の明示の要望は、職員名を貼り出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所にはいつでも職員が入りやすい様な雰囲気なので職員の運営などの意見はいつでも聞けるようにしています。その意見に基づき職員間同士で話しあい、利用者に対してよりよい意見は即取り入れるようにしている。	外国人の職員を採用している。彼らは職員や利用者にも馴染み、あらゆることに積極的に質問し職員もこれに応え、経験を経て身に着けようとしている。七夕祭り、夏祭りなどの催事について、職員が立案して実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員、パート全員に、年二回の評価制度設けており、業務等再確認して頂いている。常勤パートさんには社員への登用制度設けている。職員の資格取得には協力支援し、取得後は職場で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、知識に合わせた研修に積極的に参加させ、スキルアップに力を入れている。定期的な部署内勉強会の開催、法人全体の研修会の開催、入職時は先輩職員がついてOJTを徹底している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会などの活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される勉強会などに出来る限り職員を派遣し、同業他社や異業種の方々とも積極的に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時、利用者と家族に不安、要望、生活歴、日常の様子聞き取りを行い、フェイスシートとアセスメントシートを作成し、職員間で情報共有している。その人らしく、笑顔で生活していただけるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約前に面談をし、不安疑問等にお答えしホームを見学していただき日常を知ってもらう。入居後は家族様、利用者共に不安を感じるので、職員が生活の状況、近況を知らせ安心していただけるようにしている。現在はコロナウイルスの影響で館内に入っている面会は制限しているため、毎月のお便りで施設の近況・ご本人様の近況を書き入れたり、写真を一緒にお送りするなどの工夫をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前の面談の際、利用さんには当事業所での、出来ること、出来ないことを正確にお伝えし、医療ニーズの高い方などは、他のサービスの利用を紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは利用者主体の家である事、決定権は利用者さんにあり、主人公である事を常に職員に伝えている。その上で職員が利用者さまと共に暮らす家である認識を高めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にはいつでも来ていただけるようなオープンな関係を保つ様に努めている。面会時や電話で情報交換するなど相談しながら、本人を支える為の協力関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、入所される前の友達や親戚の方など馴染みの方が自由に面会できる環境を作っている。	家族と一緒に知人や馴染みの方の訪問を受けている。コロナウイルス禍以降は面会等自粛のため、毎月の便りで事業所の近況、利用者の状況を書き入れたり、写真を一緒に送り関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の付き合いを見守りながら、孤立になっている利用者がいたら、和の中にはいれるように職員が関わっている。気の合った利用者さん同士、同じ席で食事をとったり、季節の行事も大切に、平穏な中でもちょっとした変化もつけた生活を送ることができるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所され、一時期、介護保険を使われない場合でも、ホーム内の一員として、医療との連携をとりながら、退院前カンファレンスに参加するなど、医療連携だけでなく、医療と家族との橋渡しも大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人のニーズに添って個別のケアプランを立て、そのケアプランに添った一貫性を持ったケアが提供できるように努めている。困難な場合は、日頃の関わり中で希望意向を汲み取るようにしている。家族の聞き取り等を通して情報を取り入れる様にしている。	入居時の記録、日頃の会話の中から意向等の把握に努めている。思いの把握が困難な場合はフェイスシートや家族からの聞き取りにて意向を汲み取り支援に活かしている。夜間の接遇時思いや意向が出やすいことがあり、今後も活用するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で本人の生きて来た歴史を把握するように努めている。以前利用していた事業所にも情報提供してもらいこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調やADLを把握し、家庭的な雰囲気大切に穏やかな一日を過ごしてもらっている。できない事よりもできる事に目をむけながら支援を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどの様に生きたいかを聞きだし、日々のケアで気づいた事、創意工夫の関わり、本人の様子を観察し、よりよいケア方法を職員間で検討している。家族様には面会時に意見を聞いて、現状に即した介護計画の作成に努めている。ケアマネが他施設との兼務のため、なかなかご家族がケアマネと会う機会がないため、この度ケアマネとあらかじめグループホームに来る日を調整し、それをご家族へ伝え、ケアマネと会う機会を作る試みをしている。	職員間で共有しているケース記録を基に、家族の意向も取り入れてケアマネジャーが、介護計画を3ヶ月毎に見直し作成している。状態の変化時はその都度作成し共に家族に説明して同意、確認印を得るようにしているが、全ての家族への説明と確認を得るに至っていない。「ケアマネジャーと話そう」は家族からも歓迎されており、一層進めて行こうとしている。	年4回のケアマネジャーとの懇談を利用して家族に説明し、確認印を得て欲しい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は時間事に出来事や会話などを詳細に記録し、日々の様子や気づき、BPSDの症状が現れた時の内容等を共有し、適切な対応ができるように努め、介護計画の見直しにも活かしている。嚥下に問題ができてくるケースに対して、職員で情報共有しつつ、ご家族にも状況をご報告し、トロミ剤を使って対応するなど。個々に対してグループホームとしてできる範囲での対応を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティング時、変化があった場合はその都度、その人のニーズに合ったケアをしているか、また、ニーズが変わっていないか、検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しには利用者の心身状況を考えながら、できる限り参加できるように支援している。畑で野菜や花を利用者さんと一緒に作ったり、また、近所で取れた野菜などをいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のもとのかかりつけ医には家族様と職員と一緒に同行したり、薬をもらいにいっている。また、ホーム内では1か月に1回の訪問診療を行っている。訪問診療日以外で体調の変化があった際には、電話にて相談することで、状況によってはすぐに訪問していただき、投薬や救急搬送の手配など、行なっていたい。	家族の意向で協力医をかかりつけ医としている。精神科など内科以外の専門科は、もとからのかかりつけ医を継続しており、受診時は家族と職員が同行して情報を共有している。協力医による訪問診療が月に1回、訪問看護が週に1回あり健康管理を行っている。結果は、電話で連絡して家族と共有し、申し送りノートで職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、契約している訪問看護職に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の利用者の状況を訪問看護師と密に連携をとり、相談に努めている。かかりつけ医のいるご利用者は、可能であれば受診に同行し適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、主治医や医療機関の看護師と連携を取り、退院の際はカンファレンスを受けるようにしている。入院中は適時様子を見に伺い情報提供とともに医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、医療機関、医療機関の地域連携室等、また家族様の意思を出来る限り反映できるよう体制をとるように努めている。	入居時、重度化した場合における(看取り)指針を説明し、同意確認を得ている。医療連携体制加算を採用し、希望者には看取り介護を行っている。看取り介護に関する共通の認識を持つための研修を受けている。昨年1名看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習は既存職員は受けており、新入職員においては受講して頂く予定です。マニュアルを全職員で共有し、迅速な対応が出来るように取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との協力を得られる様に、運営推進会議で呼びかけている。実際に2度の避難を経験し、都度次回に向けて準備をしている。災害の種類にもよるが、グループホームが被災するときは地域住民も被災していることのほうが多いため、被災者同士で協力し合える関係づくりが今後必要と考える。備蓄に関しては、食料に関してはもともとグループホームは毎食職員が作って提供しているため、食材はある。施設内がオール電化のため、カセットコンロや水の確保はしている。またマスクや介護用手袋や消毒液などは避難用ボックスに備蓄してある。	避難訓練(昼夜想定)を年2回行っており地域の協力を得るようにしている。地域の消火訓練にも参加して協力関係を築くように努めている。非常時の持ち出しボックスに飲み物、使い捨て食器、マスク等衛生用品などすぐに取り出せるよう備蓄している。	地域住民の参加を得て訓練を実施して欲しい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩にあたる方々なので、敬意を払い敬語で対応している。トイレ、風呂場などは必ずドアを閉める様に徹底し、居室はプライバシーを守る為全個室になっている。	トイレ誘導などでは、声かけ、言葉遣いに気を付けている。「できないことよりもできること」に配慮して一人一人のペースを大切に支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との密接なコミュニケーションにより、日常的に要望、希望が表わしやすいように環境を工夫している。普段の会話や些細な発言に注目し、自己決定ができるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と一緒に外に出たいといわれれば、散歩に出かけている。塗り絵や体操なども提供している。利用者の意思を大切に起床、就寝介助を行い、ご利用者一人一人のペースを大切に個別ケアの徹底を図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容室にカットをしていただいている。毎日の整容の支援をしながら、自分で服を選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には下拵えしたり、味見をしてもらいながら一緒に調理をしている。お皿洗いも一緒に行っている。利用者と職員が一緒にテーブルで会話をしながら食事の時間を大切にしている。	毎食調理をし、利用者にもできる範囲で皮むきや盛付など手伝ってもらい同じ食事を職員と一緒に楽しんでいる。食事形態は刻み、ペースト食、トロミ付き等配慮をしている。コロナウイルス禍以降、誕生祝いのケーキはスマホで選び職員が買い出しに行く工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や、水分量などを、介護日誌に記入し、状態を把握して、栄養バランスや水分量には十分配慮するよう支援している。チェック表に排尿排便を記録し、量や硬さの記入を行い把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は、していただき、出来ない人に対しては声掛けや、介助により、支援している。ご自身で歯磨きをされる方については磨き残しのチェックを行い、義歯の方は夜間外して消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄日誌を照らしながら、排泄パターンをつかみ、出来るだけ、トイレの声を掛ける様に支援している。必要に応じて夜間はポータブルトイレを使用している。	トイレは手すりの向きが左右異なるタイプがあり広く、車椅子、麻痺などがある利用者にとり安心して使用でき介助も行いやすい。排泄日誌で個々の排泄パターンを把握しトイレの声かけ、誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力便が出るよう、日中の活動の中で、体を動かす体操や、散歩などを組み入れている。便秘気味の人には、食物繊維の多い食べ物や水分を多めにとっていただくことも行なっている。一部、腹圧をかせかせて頂いたり、朝冷水を飲んで頂いたり、朝食後トイレに座っていただく習慣をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ、本人の希望に添って声掛けしている。入浴が嫌いな方や、拒否の多い方は、時間や曜日を問わず声掛けしている。お好きな方は毎日でも入浴していただける環境を用意している。また、入浴時の血圧の変化にも気を付け、入浴による低血圧には職員が統一して対応できるよう、脱衣所に資料を掲示している。	週2回の入浴で、必要な場合は週3回以上の入浴を支援している。手すりを各所に取り付け安全面にも配慮をしている。脱衣室には入浴時の急変時に対するマニュアルを掲示して全職員が対応できるように取り組んでいる。重度化した利用者の入浴は、二人介助で工夫・努力している。	入浴補助具採用などの工夫をし、利用者の安全、職員の負担軽減を目指して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを守りながら、本人の希望に添って眠りたい時に寝て頂くよう、また、湿度にも気をつけている。不眠の方には生活リズムの見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導報告を往診の際には必ず聞く様にしてあります。薬の変更、追加があった場合は職員間で効能や服薬時の注意などを共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から生活歴を聞き、趣味等を把握し生活の中に取り入れている。日々の職員とのコミュニケーションの中でやりたい事や、好きな事などをお聞きしながら支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内を散歩したり、畑作りに参加したり、車を利用して外にでています。今期も一泊二日の温泉旅行を計画している。家族様の面会時にも、気分転換として一緒に外出されている。	周辺の散歩は車椅子の利用者も同じように支援している。コロナウイルス禍以降は外出自粛のため、内でおやつ作りや、花壇を作ったりして楽しんでいる。玄関前のベンチで過ごしたり、畑で草取りや野菜の手入れを行っており、家族も自由に外に出て活動している様子を見て喜んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外食や受診、理美容など、定額の現金を家族様から預っている分から支援している。以前はほしいものがある時は一緒に買い物に出かけていたが、現在はコロナウイルスの関係で積極的な買い物には出かけられていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている利用者さんは、必要な時は自分で掛けるよう、そのほかには施設の電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはゆっくりくつろげる様にソファを用意しております。季節を感じられるよう、壁紙にその月の特徴を生かした催し物飾ったり、月日が分かる様大きなカレンダーを作っております。玄関先や庭にもベンチ、椅子を置き、ゆっくりとくつろいでいただけるようにしている。	居間は明るくテーブル上で洗濯物を畳んだり、ハーモニカを吹いたり、ソファでくつろいだり思い思いに過ごしている。壁面には利用者が作成したカレンダーを掲示したり、七夕飾りを作ったりなど季節を感じる取り組みをしている。トイレ、浴室は清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルにはお一人お一人のお名前を判りやすい様に張らせて頂き、位置については、利用者同士気の合う者同士楽しく食事が出来るように配慮している。ソファは各自が自由に座っていただきカラオケやテレビ観賞を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や道具をもちこまれている。居室内は常に清潔に保持している。写真や花飾り等で明るい雰囲気を作っている。	床はフローリングでクローゼット、エアコンを設置し窓も広く自然光が入り清潔感がある。使い慣れた藤の引き出しや、孫の結婚式の写真など好みの物を持ち込み居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室は手すりを設置しており、トイレ、浴室は、分かりやすく表示し、安全に配慮しながら自立支援を行っている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	年4回のケアマネージャーとの懇談を利用して家族に説明し、確認印を得て欲しい。	ケアプランの署名捺印もれについては、早急に対応する。	1) 年4回程度をめぐにご家族に対し「ケアマネと話そう」を定着させ、ケアマネよりプランの説明ならびにご家族の署名捺印をいただく機会をつくる。 2) 日頃より、ご家族の訪問の機会をのがさず、ご家族の思いに耳をかたむけ、ケアプランに反映できるようにケアマネに情報提供するとともに、職員もご家族に対しプランの説明と署名捺印をいただくよう努める	6ヶ月
2	4	意見を述べやすいような工夫をし、会議メンバーや家族との情報交換に活かして欲しい	現在コロナ禍の影響で運営推進会議は各方面へのペーパーでの連絡の状態にあるため、ペーパーでの受け取った側からのご意見・ご質問をしやすい環境をつくる。	運営推進会議の議事録の送付時に「ご意見・ご質問票」のようなペーパーも同封して、ご家族等が発言しやすい環境をつくる。	3ヶ月
3	35	地域住民の参加を得て訓練を実施して欲しい。	避難訓練の実施日を早めに決定し、職員と入所者だけでなく、可能なかぎり地域住民やご家族等にも参加していただく。	年2回実施している避難訓練のうち、1回は可能なかぎり地域住民やご家族等にも一緒に参加していただき、緊急時の協力体制を構築する。	6ヶ月
4	45	入浴補助具採用などの工夫をし、利用者の安全、職員の負担軽減を目指して欲しい。	グループホームの家庭的な雰囲気を大切にしつつ、入所者や職員の安全面や負担軽減をはかるには何が必要か、法人本部も交え検討・対応する。	1) 環境整備が必要か検討して、必要と判断した場合には、そのような機器や道具を導入し、職員はその使い方を習得し、入所者に対し安全面に配慮して入浴を実施する。 2) 入所者がグループホームで対応できない身体状あるのであれば早急に適切な施設へうつっていただけるよう、ご家族への働きかけと協力を行う。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。